

表1 佐伯湾赤潮プランクトン調査結果 令和4年7月21日 単位:細胞数/ml

採集地点	調査時間	水深 (m)	水温 (°C)	塩分 (PSU)	DO (mg/l)	シャットネラ sp.	カレニア ・ミキモイ	ヘテロシグマ ・アカシオ	クロロディニウム ・ホリクリコイデス
1. 夏井沖									
7/22実施予定									
2. 長田沖									
7/22実施予定									
3. 片白島	10:18	0	24.1	31.83	8.6	0	0	25	0
		5	21.5	33.69	8.1	0	0	0	0
4. 小田代	9:43	0	24.3	31.15	8.1	0	0	275	0
		5	21.4	33.65	7.5	0	0	0	0
5. 沖松浦漁港	9:48	0	24.7	28.36	8.7	0	0	850	0
		6	21.4	33.67	6.8	0	0	2	0
6. 鶴見振興局裏	9:50	0	25.1	29.03	9.2	0	0	8,850	0
		6	21.4	33.62	7.4	0	0	0	0
7. 鶴見ボンツーン	9:53	0	24.6	29.31	8.5	0	1	250	0
		2	22.7	32.96	8.2	0	0	0	0
		5	21.7	33.59	7.8	0	0	0	0
		10	21.2	33.75	7.2	0	14	0	0
		11.3	21.1	33.75	6.7	0	1	0	0
		12.3	21.0	33.79	6.4	0	0	0	0
8. 石間	9:33	0	23.9	31.32	8.1	0	0	0	0
		4	22.1	33.70	7.4	0	0	0	0
9. 霞ヶ浦	9:22	0	26.4	29.33	9.8	0	0	300	0
		5	21.7	33.70	8.1	0	5	0	0
10. 守後	9:18	0	25.5	30.29	9.3	0	0	0	0
		8	21.3	33.75	6.5	0	9	0	0
11. 片神	9:04	0	26.0	30.61	8.5	0	0	25	0
		5	21.8	33.67	7.8	0	1	0	0
12. 片神～彦島	8:59	0	25.7	30.43	9.1	0	0	0	0
		9	21.2	33.76	6.7	0	0	0	0
13. 水試前	10:33	0	23.4	32.85	6.9	0	0	0	0
		5	21.7	33.62	7.7	0	0	0	0

※0mの水温・塩分・DOはクロロテックの0.5mの測定データによる

\*現在、st.7 鶴見ボンツーンにおいて自動昇降式観測機を設置していますので、QRコードまたは下記URLからご利用ください。

<http://hydro.browse.jp/hydrolift/20-Oita/oitatop.html>

参考:赤潮注意・警戒密度(単位:細胞数/ml)

赤潮プランクトン	注意密度	警戒密度
シャットネラ spp.	10以上	100以上
ヘテロシグマ・アカシオ	5000以上	50000以上
カレニア・ミキモイ	200以上	2000以上
クロロディニウム・ホリクリコイデス	30以上	300以上

\*警戒密度は漁業被害が想定される密度です。

\*アربي、サエ等ではカレニア・ミキモイで100~200細胞/mlで斃死する可能性があります。

\*マダロに関しては、赤潮注意・警戒密度に1/10を乗じた細胞密度とします。



自動昇降式観測機QRコード

連絡事項

有害プランクトンのシャットネラ類、カレニア・ミキモイ、ヘテロシグマ・アカシオが確認されました。

また、ヘテロシグマ・アカシオが鶴見振興局裏周辺で注意密度を超えて増殖し、プロロセントラム類と赤潮を形成しています。

今後の細胞密度の推移と魚介類の管理にご注意下さい。

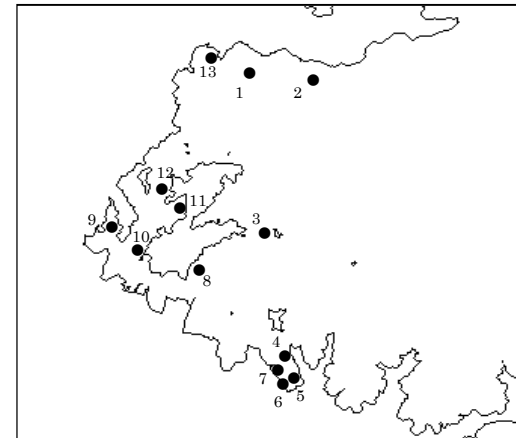


図. 調査定点図